

代第三拾七号

三ツ菱社流船玄龍丸衝當候付巨袖出届
 市日本前一時差五分頃當船船用羅針東北
 東の方テ流船壹艘入港サイドラエバ紅色を個々
 見認ヌ内暫ク之テ方向ヲ轉シテ青紅共ニ
 相見ヘ深處ヲ呼フ之聲相聞ヘ徐々ニ進航スル之
 趣ニ相窺居ヌ未ダ東船ニ觸通ラズテ縁邊ニ因時
 四十秒以鳳翔船ノ船先ヲ通航ニ斬々當船ノ中刻
 之向テ之前進スルヲ望見セリ甲板當直校針長屬
 小林龜吉大声ニテ吾船近シ早ク施術セザバ代
 間數ト報告仕ル処彼船於テ日布辭ニテ後進セヌ
 ニカスト言ヒ声ハ閑ヘ候得共其術ハ施セシ模様相見ヘ
 不申其内三船ヲ變化セシヤ船首振旋リ候既當船

往人第百二八号

海軍省

百

二近寄りて、當直士官清水少尉補、錨鎖留方
 之令下りしを得共、是早間、合不申、被_レ當艦之後
 却_レ来り、已_レ倚懸り、時始_レ後進_レ、其_レ又撲
 お見へ、又彼_レ船_レ右_レ振_レ、其_レ延_レ被_レ船_レ使_レ泊_レ用意_レの
 次、右_レ錨_レカ_レトヘ_レト、錨_レ右_レ置_レ付_レ、錨_レハ_レ以_レテ
 當_レ艦_レ中_レ後_レ之_レ移_レ張_レ、右_レ側_レヲ_レ擦_レ、且_レ上面_レ右_レ端_レ
 長_レサ_レ三_レ尺_レ程_レ被_レハ_レ引_レ懸_レテ_レ剥_レ破_レセ_レ、其_レ後_レ後_レ進_レ、
 子_レ何_レ船_レナル_レ哉_レヲ_レ尋_レ、其_レ延_レ三_レ基_レ、仕_レ當_レ艦_レト_レ事_レ、
 又_レ即_レ時_レ船_レ長_レ来_レル_レベ_レト_レ通_レ告_レ仕_レ置_レ、被_レ船_レハ_レ又_レ舵_レ
 取_レ直_レシ_レ、則_レ進_レシ_レテ_レ奥_レニ_レ入_レ、被_レ泊_レ仕_レ、予_レ同_レ二_レ時_レ三_レ基_レ
 比_レ多_レ、執_レ丸_レ事_レ勢_レ長_レ下_レ村_レ安_レ智_レト_レ名_レ乗_レ、船_レ長_レナ_レ外_レ國_レ人_レ
 名_レ同_レ伴_レ来_レ、船_レ停_レ、過_レ刻_レ入_レ港_レ、其_レ時_レ夜_レ、被_レ停_レ、
 被_レ船_レハ_レ衝_レ當_レ其_レ、其_レ受_レ、其_レ間_レ換_レ所_レ有_レ、其_レ又_レ其_レ見_レ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

里下船長不法割申上與及格下申出並無可乘而
 然其後乃以船長不從書而德差出より執
 執者独断より格而計者付其書面より所獲
 長より付指揮に依て可致所置者申聞より
 因船係久品川揚より荷物移入居より付被地
 回船仕度中德差両決而荷揚之妨より可致係より
 之より書得共決一件罷より付付之迄より出港差止之
 旨申聞被者去船其後十時以格隔三菱社
 支店事務長より由より外國人其名通辨より有
 連より素經彼誤之院言より德差猶彼船長より
 院書差差出よりより品川回船より許より品川中
 德差より付然より付之差より被誤より咎問より耳
 より荷物等より其毫も如より入より之利より之件併

甚助思ふ不き事なりと云ふも亦之を承り付
 先づ書面より速に可き事を出し其子之意より可き事修
 彼船に動止ありと云ふ事及て下申関印刻去
 船付又至時追同人別家船長俵持系
 披見仕る処あり概承る大意より向品海
 船より即刻着件申す今朝無事より不取
 放た略し届仕置る得せ古最初より形行
 際より百書き色葉及概承る色葉氏
 更に長袖法届仕る也

明治十年

千代田水戸長

七月十三日

海軍大尉原俊則

東海鎮守府司令官

海軍少将伊東祐磨殿

海軍省

市港内定必衣由形終ハ三善會社
 之親九衛所支云く在幸分七十四号
 以以子方所被少由信多其多方又子
 書之通同終る面出所方信五車
 別我也

十一年十月十日

東海路守行自長春

海軍少将伊集院

海軍大輔川村純義

東三十八号

横濱千八百七十七年一月十三日

天皇陛下之汽船千代田艦長

貴君

私儀玄龍丸ニテ今朝二時横濱入港ニ際御艦ハ外國ノ一
大船ニ依テ隠サレテ有リ候ニ付不得止衝突シテ御艦ノ
コックハウスノ屋根江我錨ノフック相觸レ亦々破損セ
シ般奉忍入矣

右損処修繕ニタメ大工等差出シ度矣得ドモ其儀即承諾
不被下致故私儀談件ヲ本社へ通告致候ニ付必本社ヨリ
此事ヲ十分ニ整理可致候

○玄龍丸船内ニハ品川ニ向テ運送スベキ荷物有リ候ニ
付横濱へ御引當ニ上御都合可被下儀御免ヲ蒙リ度奉願

0373

候

爾後僕シヨシエーハツブル

海軍省